

入場  
無料

認定NPO法人「みんなでお城をつくる会」  
創立7周年記念研究報告会

小田原城天守調査研究室

## 小田原城天守の構造を考える

～小田原城天守模型調査の中間報告～

小田原城調査研究室では、小田原城について、学術的価値や特徴などを明らかにするとともに、その調査研究成果を広く情報発信することにより、国史跡小田原城址への理解を深め、市民一体となって適切な保存を図って生きたいと願っています。

その第1弾として一昨年より調査してきました小田原城天守3基の模型（東大・大久保神社・東博模型）調査の中間報告を行います。

また、実際に伝統木構造に携わる大工棟梁と300年の森を守り続けてきた林家家当主から見た、現代における木造天守のあり方と課題についてお話をさせていただきます。

## 2020年2月11日(火・祝) 建国記念の日

17:45～19:45 (開場17:20)

会場

小田原市民交流センター (UMECO)

小田原駅東口より右側旭丘高校向かって徒歩2分 (有料駐車場有)

17:45～18:45 第一部：報告会

「史料からみた“江戸時代最後の天守”の木組みについて」

「3Dスキャナによる小田原城天守模型の計測中間報告」

宮本 啓 (当会研究員)

18:45～19:45 第二部：提言

「天守作事の考察・部材の調達から木取り・墨付・刻みまで」

白根 伸浩 (棟梁)

「森から天守を考える」

辻村 百樹 (辻村農園・山林 代表)

主催：認定NPO法人みんなでお城をつくる会

後援(順不同 交渉中を含む)：小田原市文化部 / 小田原箱根商工会議所 / 小田原市観光協会 / 小田原市商店街連合会 / 一般社団法人伝統を未来につなげる会 / 神奈川県建築士会小田原地方支部 / NPO伝統木構造の会 / NPO新月の木国際協会

お問い合わせ：認定NPO法人みんなでお城をつくる会 <http://www.odawara-oshiro.org>  
TEL 0465-46-8944/FAX 050-3488-2039/<info@odawara-oshiro.org>

お城  
通信



2020年1月

認定 NPO 法人 みんなでお城をつくる会

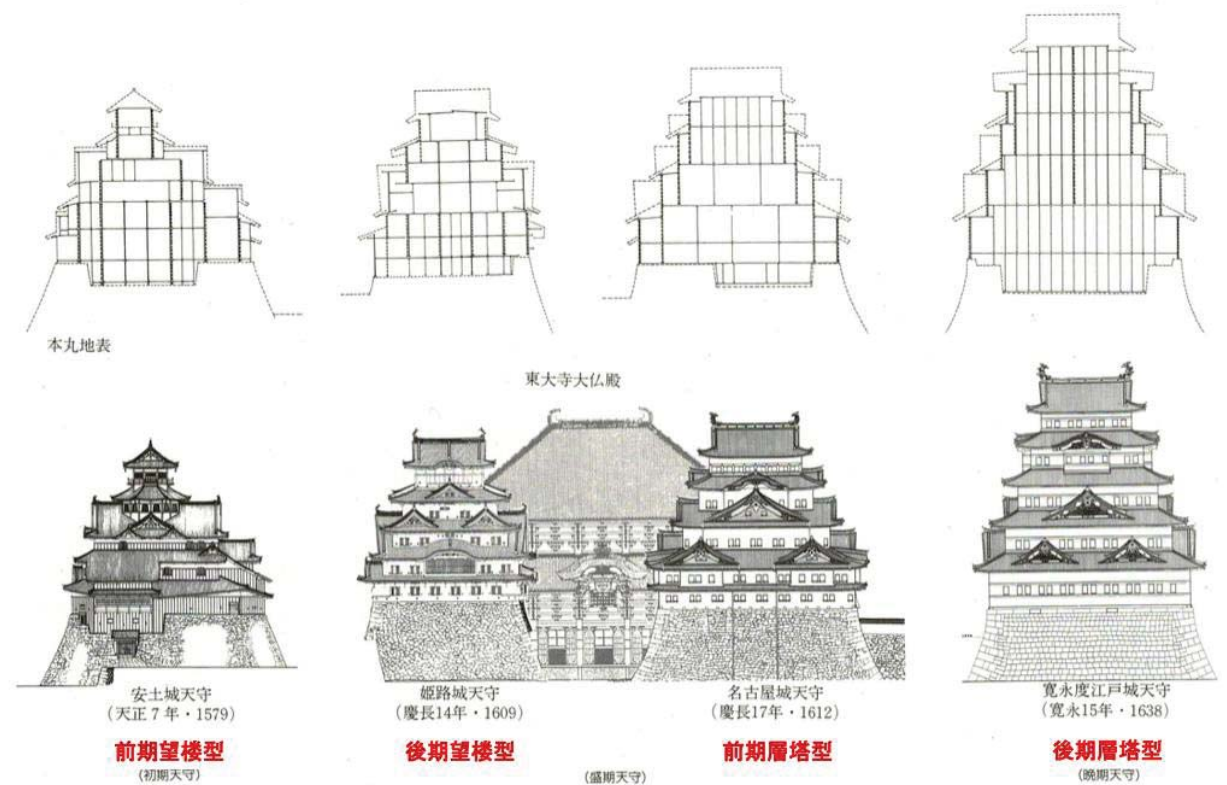
小田原城天守事始め ～木造天守への道～ 第3・4回 コラム発信

小田原城天守調査研究室 宮本 啓

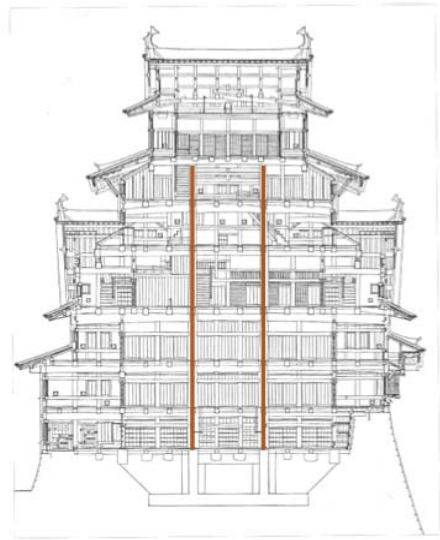
今回は、「望楼型」と「層塔型」という天守の「型」の区別についてご説明しました。今回はその「型」の変化・発展について、これまで建てられた天守を例にもう少し詳しくご紹介していきたいと思います。

### 「型」の変遷と大規模化

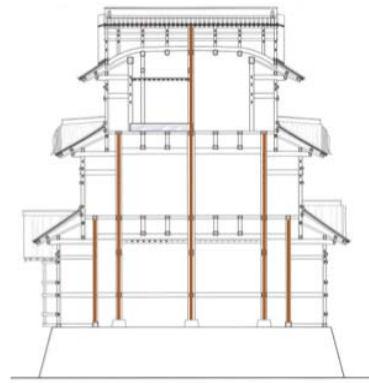
下図は、建築史家の故・内藤昌博士が作成された天守の「型」と規模についての変遷図です。内藤博士は、前回少し触れました安土城天守の復元考察にも尽力された方ですが、「望楼型」から「層塔型」へ移行していく過程で、外観の形も変化しその規模も大きくなっていったことがわかります。姫路城天守以外は失われていますが、江戸城天守は特別に大きかったのですね・・・



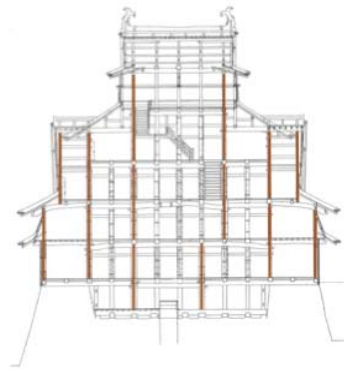
上図の上半分をご覧ください。安土城から江戸城へと時代が下るにつれて、天守の内部に 建つ柱の位置が上下階で何となく整理されていくのがおわかりになるでしょうか？大きな 傾向としては「望楼型」から「層塔型」へ移行するに従って、姫路城天守の東西の大柱のように、数階分を貫く長くて太い「通し柱」は使用されなくなったとされています。



姫路城天守/望楼型  
5重6階地下1階



小田原城天守/層塔型  
3重4階  
（「東博模型」）



松江城天守/望楼型  
5重5階地下1階

宝永年間に再建された小田原城天守は「層塔型の三重天守」だったと前回ご紹介しましたが、現存天守と比較するとその大きさは... ということで作成したものが上の図です。さすがに江戸城天守には及びませんが、屋根の重なり方と階数からするとだいぶ大きかったことがわかります。ちなみに初期の「層塔型」の代表である松本城天守よりも大きいのです。

図版出典：『復元日本大観 I 城と館』世界文化社  
『国宝姫路城大天守修理工事報告書』  
『重要文化財松江城天守修理工事報告書』  
『小田原城天守模型等調査研究報告書』

### 宝永度再建の小田原城天守の史料について①

これまでの3回で簡単なおさらいと天守の「型」についてご紹介してきましたが、今回から具体的に小田原城天守の特徴を見ていきたいと思っています。しかしこれはあくまでも見方のひとつであり、今後研究を推進していく上で見解が変わっていく可能性をご了承ください。

### 現存する史料

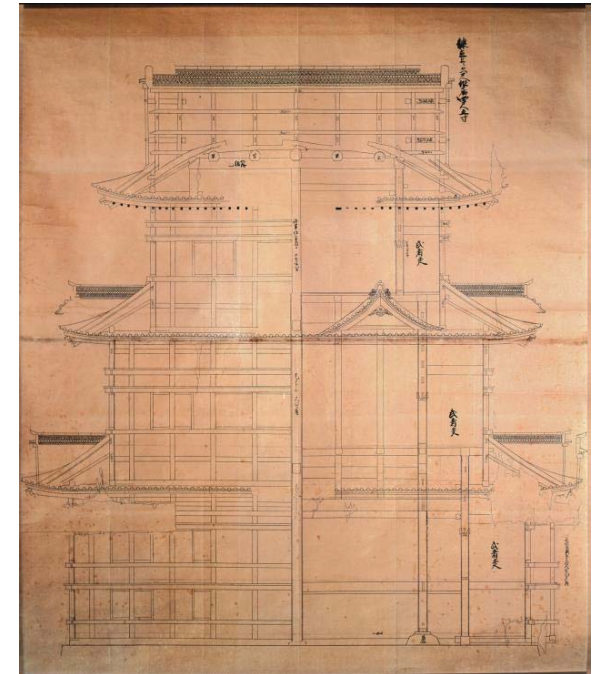
現在、小田原城天守閣には2基の天守雛形(模型)が展示されています。1階に展示されているのが「大久保神社模型」で、その背後には「小田原城三重天守引図」という図面の拡大コピーが貼られています。最上階に展示されているのは「東大模型」と呼ばれています。残念ながらいずれも、どのような意図でいつ作成されたのかははっきりとはわかりません。

### 大久保神社模型

しかしながら近年の研究で、その「大久保神社模型」と「小田原城三重天守引図」（以下、「引図」と略します。）、そしてもうひとつの雛形である「東博模型」（神奈川県立歴史博物館に展示）の関連性が指摘されました。特にこの「東博模型」に関しては、現在の天守閣最上階に再現された「摩利支天空間」の根拠となる表現があることが大きな特徴です。



「大久保神社模型」



「小田原城三重天守引図」



「東博模型」

### 東博模型

2013・14年度にはここに挙げた模型と引図の調査研究が行われましたが、まだ未解明な部分も多く、その関連性も確固たるものではありません。だからこそ本研究室では、様々な角度からより突っ込んだ調査研究をしてきたいと思っています。

次回からは、2013・14年度の調査研究の結果をまとめた報告書などをもとに、各史料について個別にご紹介していきたいと思っています。お楽しみに。

写真出典：『小田原城天守模型等調査研究報告書』  
※個々の写真・図版のSNS等への転載はご遠慮ください。